

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	加太中学校	神崎 信彦
学校所在地		
〒 640 - 0103 和歌山市加太2692-1 tel 073(459) 0004 fax 073(459)2655		
担当者名	役職名・担当教科	
寺尾 憲和	教頭	
〔学校の概要〕 本校は、和歌山市の西北端に位置し、海と山に囲まれた静かな環境にあり、漁業と観光業が盛んな地域です。加太地区の世帯数、人口は、年々減少しており、令和3年10月現在の世帯数、1,209世帯、人口が2,482人で、本校の全校生徒数も同じく年々減少しており、現在の全校生徒数は24人で、和歌山市の学校では最小規模校です。クラブも体育部としてはソフトテニス部だけの学校ですが、色々な活動では、盛んに行われています。また、地域と学校とのつながりが深く、学校教育に対する関心や期待が大きい地域でもあります。		
研究実践に関する事項		
対象者・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
1年8名・2年5名・3年11名（計24名）	世界遺産マスター2名、メンター職員3名、教職員9名（14名）	高野山（一の橋～弘法大師御廟）
実践研究テーマ		
学術上極めて高い価値を有する世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について学び、理解を深める。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	高野山学習	
〔キーワード〕 世界遺産学習		
〔単元目標〕 (1) 地元和歌山の世界遺産である高野山の歴史、文化について調べ、理解を深める。 (2) 調べた内容を伝え合う活動を通して高野山の素晴らしさやよさを感じる。（感じる力） (3) ビデオの鑑賞により情報を集め、必要な情報を取捨選択して、目的に応じた資料の収集整理をする。（実現する力） (4) 高野山での現地学習として、「世界遺産講座」の受講・ビデオ鑑賞またフィールドワークを通してより実際の、専門的な知識を得る。また、その情報をまとめる。 (5) 調べたことをプレゼンテーションして発信する活動を通して、企画力、構想力を高め、情報の受け手を意識した表現をする。		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 5 時間 （「 高野山学習 」 4 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター…次世代育成事業（現地学習） 和歌山県世界遺産マスター…次世代育成事業（現地学習）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	和歌山の歴史や文化を学習する。	「わかやま何でも帳」・「わかやまの文化財ガイドブック」	「わかやま何でも帳」 「わかやまの文化財ガイドブック」等
2	高野山について調べよう	インターネットや書籍等で高野山についての調べ学習を行い、知識を深める。	ワークシート
3	高野山についてのビデオ学習 NHK「ブラタモリ」のビデオを観る ・「高野山と空海」 ・「高野山の町」	ビデオ鑑賞を通して高野山についての知識をより深める。	鑑賞態度
4	現地学習	世界遺産講座を受講 「紀伊山地の霊場と参詣道」の学習 高野山でのフィールドワーク。	観察
5	まとめよう	学んだことをワークシートにまとめ、学級内で発表する。また、他者の発表内容を聴き、他者の考えを受け入れながら、自らの考えを構築していく。	ワークシート 発表態度
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果 事前にインターネットや書籍等を使って生徒みんなで和歌山の歴史や文化を学習していたことにより、高野山での現地学習では、「紀伊山地の霊場と参詣道」について主体的に学ぶことができ、理解を深めることができた。その結果、和歌山県の良さや我々の加太地域の良さに改めて気づくことができた。更に、仲間と共に学習することで人と人のつながりの良さにも気づききっかけとなった。「ふるさと教育」の目的である『和歌山への愛着を高める学習』を推進することができたと同時に協同する大切さを学ぶことができた。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産教育は、教科教育において基礎・基本を学び、実際の世界遺産を通じて、世界を身近に感じると共に、自分の身近にも大切にし、未来の世代に残したいものがあることを考えることができる。また、その学習の中で、興味を持ったこと（人権、共生、環境、平和等）を見つけ、個人のテーマとして広く、深い学習をしていくことができると思われる。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> (1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、調べ学習（聞き取り、図書、インターネット等）を通して興味関心を持てるようになる。 (2) 高野山で課題解決する力、コミュニケーション能力の方法も身に付けることができる。 (3) 現地学習を通して世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての興味関心を高めるとともに、世界遺産学習の素地を養うことができる。 (4) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」で学習したことをもとに、外国の世界遺産に関心を持ち課題設定ができる。 (5) 課題について学習したことをまとめ、自分の考えを聞き手に意識して発信することができる。 			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産や身近にある文化遺産、自然環境などを通して地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、持続可能な社会の担い手としての意欲や態度を養い、これからの国際社会を形成する子どもたちの資質を高めるためには、この世界遺産学習を通して行うESD（持続発展教育）や授業設計が必要であると考え。例えば、世界遺産を保全するために、国境を越えて交流しそれぞれで活躍する人々の姿等に触れることで、諸課題に行動できる意識の高い人材の育成ができると思える。</p>			

様式 2

令和3年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]



資料①



資料②



資料③



資料④

生徒 高野山現地学習の感想（一部抜粋）

○世界遺産についてのお話で、世界遺産の種類が三種類あることを学びました。文化遺産と自然遺産があることは知っていたけど、複合遺産があることは知りませんでした。複合遺産は、文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているものと教えてもらったので、しっかりと覚えたいです。そして、遺産の数は文化遺産が一番多く、その次に自然遺産が多く、複合遺産が一番少ないということも分かりました。午後の奥の院でのフィールドワークでは、高野山の七不思議が印象に残りました。特に井戸の中を覗いた時に自分の顔が水面に映らなければ三年以内に落命すると云われる「姿見の井戸」が印象に残りました。いろんな偉人のお墓は、やっぱり普通のお墓とは違うなって思いました。門がついていたり、すごく大きなお墓もあったりしたのでびっくりしました。普段できないような体験ができてとっても楽しかったです。

○去年、高野山に行ったので、今年も同じだろうなと思って行ってみると、世界遺産のすごさを知ることができてとても楽しかったです。和歌山に有名な世界遺産があることに誇りを持ってました。大人になったらボランティアなどで世界遺産についての取組を試みたいですね。

○「紀伊山地の霊場と参詣道」はなぜ世界遺産になったのかという事について深く知ることができたと思う。また、世界初の世界遺産というのは、一つの物を世界の人々で守ることから始まったという事に驚いた。実物を見ると、長い間ここにあるという事を頭で理解するのと自分の体で感じるのは全く違ってました。